

平成27年度1月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 平成28年1月8日（金）午前11時00分～午前11時30分

場所 市役所2階第3委員会室

出席 市政記者クラブ等12社

会見内容

1. はじめに

- 記者の皆さま、新年あけましておめでとうございます。穏やかに新年を迎えましたこと、心からお喜び申し上げます。新年を迎えて最初の記者懇談会にあたり、一言ご挨拶申し上げます。
- 昨年の1月の記者懇談会では、「【人口減少社会に立ち向かうまちづくりの推進】」を方針として打ち出し、人口減少社会にあっても、釧路市が持続的に発展していけるよう、この課題にしっかりと向き合い、取り組んでいく」というお話をさせていただきました。昨年は、地方創生の取組みのなかで、釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定したところであります。
- 釧路にしかないもの、釧路らしいものをこれまで以上に磨き上げ、将来の釧路を担う世代が、「住みたい・暮らしたい」と思えるまちづくりをどのように進めていくべきかについて、産・官・学・金・労・言といった、あらゆる視点からご意見をいただく中で、戦略を策定してまいりました。
- 戦略づくりが中心だった昨年をスタートとする地方創生に係る取組みは、今年が、実質キックオフの年になりますことから、釧路市民一丸となって、この戦略に定めた目標を実現していきたいと考えております。
- 本年3月12日に高速道路が釧路につながります。道東自動車道阿寒インターチェンジ、また、釧路外環状道路釧路西インターチェンジ、釧路東インターチェンジ間の開通が控えており、釧路圏と札幌圏のさらなる交流人口の拡大、物流環境の向上、地域防災力の向上が期待されるところであります。また、広域観光ルートなど、近年増加している海外観光客の受入体制整備なども進めてまいりたいと考えております。
- あわせて、昨年は、地方創生の機運が高まるなか、金融機関をはじめとしたさまざまな企業と包括協定を交わしており、こうした連携体制を活かして、官民連携で、観光、子育て、医療、介護など、市が抱えるさまざまな課題の解消を図り、若い世代が将来に向けて、誇りを持って住み続けられるまちづくりを進めていくことが重要であると考えております。

- 本年もみなさまのご理解とご協力をお願い申し上げ、年頭にあたってのご挨拶といたします。

2. 話題提供（4項目）

1. レシピサイトを活用した創作レシピ商品化事業について

- 最初の話題です。国の地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金により実施しております、レシピサイトを活用した創作レシピ商品化事業について、レシピを募集する事業者が決定しました。
- この事業は、地元の事業者がインターネット上で釧路の食材を題材にレシピを募集し、応募のあったレシピの中から商品化可能なレシピを選んで、新商品の開発・販売を行うことを目的としています。
- 事業者の選定を行うため、12月の16日から29日まで、市ホームページおよび、釧路市水産加工業協同組合等の関係団体を通じて公募を行いました。有限会社釧路フィッシュが「イワシ」を素材テーマに、株式会社マルア阿部商店が「サバ」を素材テーマに、以上、2社から申し込みがあり、レシピ募集事業者として決定したところであります。
- 今後、選定事業者は、商品化を検討している素材テーマと製造工程で対応できる加工方法をレシピサイト上で応募条件として提示し、その条件を満たすレシピをコンテスト形式で全国から募集します。また、レシピコンテスト終了後に調理関係者や一般消費者によるレシピ審査会を市内で開催し、商品化を行うレシピを決定した後に来年度の新商品完成を目指すこととしております。
- この事業の展開により、地域の食材を使った料理を紹介することで、釧路の食材を積極的に利用する機会の増加につながり、外貨の獲得や「釧路」の知名度向上につながることを期待しております。

2. 「音別新八景」の選定について

- 旧音別町では、平成8年度に観光産業づくりの一環として「音別八景」を制定していましたが、現在は、容易に立入ることができない箇所があることや、選定当時と状況が大きく変わってしまった箇所があり、あらためて、音別の新たな魅力を発見し、市内外に広くアピールしていくため、職員提案事業として「音別の魅力再発見」と題し、「音別新八景」を選定することとし、平成26年9月22日から平成27年9月25日までの1年間、音別地域の四季折々の風景などの写真を募集したところ、応募者数23名、48作品の応募がありました。

■ そして、昨年12月24日（木）に開催された音別地区新景観選定委員会において、音別の魅力ある景観スポットとして「音別新八景」を選定いたしました。

■ それぞれの選定地の紹介をさせていただきますと、

- ① 「^{かみおんべつ}上音別桜並木街道」は、道道241号線沿いを彩るおよそ5kmのエゾヤマザクラの桜並木であり、この桜並木の美しさは、この先にある桜の名所、憩いの森への期待感を大きく膨らませてくれるものとなっております。見ごろは桜開花後の5月上旬～中旬です。（※桜本数：約450本）
- ② 「^{しょうおんべつがわ}小音別川上流の滝」は、音別市街からほぼ北側25.6kmの小音別地区にある音別川の支流で、ヤマメやイワナが生息する自然の流れを有し、この周辺でも特に調和のとれた美しさがあります。7月～8月頃に訪れると、涼しさを感じるとともに、なだらかな斜面を絶え間なく流れ続ける水音が見る人の気持ちを和らげてくれます。
- ③ 「ふれあいの森」は、家族で憩う場として訪れる方も多いところであり、そこには夫婦の様に寄り添う二本の木々（黄金シダレヤナギ・ベニカエデ）が森全体を見守るように仲良く整然と立っています。9月頃には秋の色づきはじめて木々を眺めることができます。
- ④ 「^{みたき}三滝の沼」は、かつてアイヌ語で「トークッシャロ」（沼から水の流れ出る口）と言われ、音別町史ではコロポックルが住むと記述されている伝説の沼であります。9月～10月ころ澄んだ水面に、秋の色づいた木々が写し出されます。
- ⑤ 「パシクル湖畔の夕日」につきましては、10月から冬に近づくにつれ、徐々に海寄りに沈んでいく美しい夕日をパシクル湖畔近くの砂浜から眺めることができます。
- ⑥ 「音別の丘からの眺望」につきましては、高台からの眺めを収めた作品であり、そこからは音別の街並み越しに阿寒富士を望むことができます。加えてその場所からは音別海岸を一望することもできます。
- ⑦ 「^{しゃくべつ}尺別の丘からの眺望」につきましては、澄みきった高く青い空と自然の海岸線を背景に、白銀の地を列車が疾走する様子を眺めることができます。
- ⑧ 「音別川のタンチョウ」につきましては、12月～2月頃、冬期間のみ音別を訪れるタンチョウを見ることができます。白銀の中を流れる清らかな音別川を訪れるタンチョウは、やすらぎを感じさせる景観であります。

■ 今後は、「音別新八景」を紹介するパンフレットなどを作成し、公共施設や観光施設等に配布するなど、音別地区の新たな観光資源として広くPRすることにより、音別の地域振興につなげて参りたいと考えております。

3. 阿寒湖氷上フェスティバル I C E ・愛す・阿寒「^{ふゆはなび}冬華美」の開催について

- 次の話題です。「阿寒湖氷上フェスティバル ^{アイス} I C E ・愛す・阿寒『^{ふゆはなび}冬華美』」が、今年2月1日（月）から3月13日（日）までの41日間、NPO法人 阿寒観光協会まちづくり推進機構と釧路市の主催により毎晩（午後7時30分～8時30分）開催されます。
- 氷上フェスティバルは、アイヌ舞踊を盛り込んだセレモニーと阿寒湖の氷上から打ち上げる300発の「冬華美」をメインに、氷切り体験、氷上ゲーム、様々な雪像、すべり台など、観光客の皆様にご冬の楽しみと体験を存分に味わっていただくフェスティバルです。開催期間中は全国や海外から5～6万人のお客様が訪れる見込みです。海外からは中国、台湾、香港などのほか東南アジアからのお客様も多数訪れ、冬の北海道を体験するメニューとして好評をいただいております。
- 2月14日（日）には、沖縄デーと称して琉球放送の ^{やなぎたく}柳卓アナウンサー（芦別市出身）の縁で33回目となる沖縄ツーリスト主催の「白い北海道」ツアーの最終日を迎えることから、阿寒湖温泉に300名を超える皆様をお迎えした中、私も出演する沖縄へ向けてのラジオ生放送を予定しております。今回も多くのお客さまをお迎えできるということで、今から楽しみにしているところです。
- また、「あいすランド阿寒」は、阿寒湖の氷上でワカサギ釣りをはじめ、スノーモービル、バナナボート、4輪バギーやスケートなど、子どもから大人まで楽しめる体験フィールドとして、1月から3月下旬まで開設され、阿寒湖の冬の名物として、観光客の皆様にご親しまれております。今年も1月1日からの開設に向けて準備を進めておりましたが、暖冬の影響で、湖の結氷が遅れており、ようやく、明日9日（土）より、一部のイベントから順次開催する予定となっております。今朝現在の状況を見ると、ワカサギ釣り、バナナボートなど、スノーモービル以外はできそうという情報が入っています。
- 阿寒湖の自然、氷上での体験を十分堪能され、フェスティバルともどもお楽しみいただきたいと思っております。

4. くしろ冬まつり 2016 の開催について

- 昭和39年に、1回目の氷まつりが開催され、平成23年度からは名称を「く

しろ氷まつり」から「くしろ冬まつり」に変更し、釧路の冬のイベントとして開催しております。本年は2月6日(土)と7日(日)の2日間、実施することとなりました。

■ このくしろ冬まつりは、市民や観光客の皆さまが、お子さんと一緒になって雪や氷に触れていただき釧路の冬を楽しんでいただけるような、イベント満載の2日間にしていきたいと考えております。

■ 会場につきましては、観光国際交流センター前庭をメイン会場とし、連動した形で、「氷の迷路」をMOOのエプロンで開催、観光国際交流センター内でも、協賛イベントの開催を予定しています。

■ 今年の主な内容は、2月6日(土)に「冰雪像引渡し式」、北海道新聞社主催の「花火大会」やビンゴ大会、7日(日)には釧路新聞社主催の「宝くじ付きもちまき大会」などを予定しています。また、昨年度から始まりました「縁日コーナー」も引き続き観光国際交流センター内に設置し、2日間屋内外で楽しめる内容で準備を進めています。

■ 子どもたちに大人気の冰雪像やチューブスライダーは、今年も釧路地方建築協会青年部をはじめ7団体の皆さんが制作するとともに、観光国際交流センター内では、「障がい者芸術作品展」、「水産食品まつり」、「くしろ消費者まつり」、「フリーマーケット」などが行われる予定となっておりますので、多くの方々の参加を期待しております。

3. 質疑要旨

(質問)

- ・ 音別新八景の表彰の対象者数は何名でしょうか。

(音別町行政センター地域振興課長)

- ・ 1名で2作品重複している方がいらっしゃるのので、7名8作品になります。

(質問)

- ・ 今年度はパンフレットを作成予定とのことですが、来年度以降の展開で考えられていることがあれば教えてください。

(音別町行政センター地域振興課長)

- ・ 幼稚園や小学校などのバス遠足のルートなどに組み入れていただくなど、関係機関へさまざまな提案を投げかけていきたいと考えています。また、音別町内の方々

にも改めて、自分たちの住んでいる町にこんな素晴らしいところがあるんだということを認識していただけるようにPRしていきたいと考えています。

(質問)

- ・ 昨日、日本郵便より発表がありました、同社より発売していた、釧路の夕日をテーマにした切手の表記に誤植がありましたが、それについて市長のご感想を一言いただければと思います。

(市長)

- ・ この出来事から、我々も改めて、しっかりとミスを無くしていこうと思ったところが一番の感想であります。タンチョウやマリモ、湿原などを題材にまさにご当地の切手シートを作成いただき、ありがたいと感じているところです。

(質問)

- ・ 市長ご自身もお手にとってご覧になられていたところでしょうか。

(市長)

- ・ 見ておりましたが、文字が小さく見落としておりました。

(質問)

- ・ ある意味、夕日のマチとしてこれをきっかけにさらに知れ渡ればという思いもありますでしょうか。

(市長)

- ・ こういったことで、切手自体の価値があがるといったこともあるかと思いますが、市のPRにかかるもののチェックの重要性も我がことのように改めて感じたところです。

(質問)

- ・ ようやく、道東自動車道の阿寒インターチェンジの開通が決まったということで、昨年は、白糠インターチェンジの開通にあわせてテレビコマーシャルが放送されるなどのPR活動がありましたが、今後、阿寒インターチェンジの開通に向けて、同様のPR活動などを予定されているのでしょうか。

(市長)

- ・ 開通に向けて、札幌のみならず、PR活動を予定しております。併せて3月26日の北海道新幹線の開通は、北海道全体にとっての話題であるということがあるので、是非ともそことの連携を進めていこうと関係機関へ相談している最中でありませす。テレビコマーシャルはまだ、聞いておりません。昨年も撮影の1週間前に聞きましたが、今回の状況はまだ判っておりません。

(質問)

- ・ どうしても北海道新幹線の開業に押されているところがあるので、念願の道東自動車道の阿寒までの開通のPRが寂しい印象があります。

(市長)

- ・ 新幹線については、様々なPRがなされています。白糠インターチェンジ開通時は、一般的には2カ月前ですが、3カ月前に開通日が発表されました。そして、阿寒インターチェンジについても同様に約3カ月前に発表していただきました。この期間を活用して、新幹線運行ダイヤにあわせてPRを行っていくことで、周知効果が期待できると考えているところです。北海道は大きいので、各ブロックごとの話題として道東は阿寒インターチェンジの開通がPRできると考えております。

(質問)

- ・ 北海道全体では、新幹線の開通が控える中、いろいろな調整の中で、阿寒インターチェンジの開通日が3月12日に決まったものと思いますが、この開通日について、どのように受け止めていますでしょうか。

(市長)

- ・ 従来の国道において物流の障害などがある中で、3月の早い時期に開通するという事は、その分、通行に関する障害が早く取り除かれ、地域にとって早く良い環境が整うと感じているところであります。雪の時期ということはありませんが、その効果が、1日でも早く実感できる。あわせて、早期開通を生かして、ゴールデンウィークであるとか、湖水開きなどに生かしていくということが可能になります。
- ・ 3カ月前から開通予定日のご報告をいただいたことは、大変ありがたいと考えております。早く開通日を知ることができた時間を有効に活用する努力を進めていきたいと教えています。

(質問)

- ・ そういう意味では、施設面での拡充も必要と思われませんが、先日、阿寒マルシェがオープンしました。今後、議会で承認されてからだとは思いますが、道の駅の拡充についても意欲はおありになりますでしょうか。

(市長)

- ・ 阿寒インターチェンジの開通に向けた取り組みのひとつとして、阿寒マルシェ12月19日にオープンしました。土日や新年も含めて、大変多くの方にお越し頂いているということですので、非常にありがたいと思っています。
- ・ 丹頂^{たんちょう}の里エリアというのは、高速道路の開通後は、阿寒湖畔、弟子屈、オホーツクも含めての玄関口となり、様々な情報発信をできる場になると考えています。阿寒マルシェについても次なる展開など、大きな役割を担っていると考えていますので、今後機能等を充実させ、その役割を果たしていければと考えています。